

一 如是我聞の事

仰せに云はく、如と云ふは衆生の如と仏の如と一如にして二如無きなり。然りと雖も九界と仏界と分かれたるを是と云ふなり。如々を不異に名づく、即ち空の義なりと釈して、少しもことならざるを云ふなり。所詮法華經の意は、煩惱即菩提・生死即涅槃・生仏不二・迷悟一体なり。是を如と云ふなり。されば如は実相、是は諸法なり。又如は心法、是は色法、如は寂、是は照なり。如は一念、是は三千なり。今の經の心は文々句々一念三千の法門なり。総じて如是我聞の四字より外は今經の体全く無きなり。如と妙とは同じ事、是と法とは又同じ事なり。法華經と釈尊と我等との三つ全く不同無く如我等無異なるを如と云ふなり。仏はさと^悟り、凡夫は迷ひなりと云ふを是とは云ふなり。我聞と云ふは、我は阿難なり、聞と云ふは耳の主と釈せり。聞とは名字即なり。如是の二字は妙法なり。阿難を始めとして靈山^{りょうぜんいちえ}一會の聴衆同時に妙法蓮華經の五字を聴聞せり。仍って我も聞くと云へり。されば相傳の点には如は是なりきと我聞くと云へり。所詮末法^{しよせん}当今には南無妙法蓮華經を我聞くと意^{こころう}得べきなり。我は真如法性^{ほっしょう}の我なり。天台大師は同聞衆と判ぜり。同じ事を聞く衆と云ふなり。同とは妙法蓮華經なり、聞とは即身成仏は法華經に限ると聞く事なり云云。